

## 津市総合計画後期基本計画の策定に係る踏まえるべき 主な視点について

豊かな文化と心を育むまちづくり  
・参加と協働のまちづくり分科会

このことについて、当分科会において、「豊かな文化と心を育むまちづくり」及び「参加と協働のまちづくり」に係る協議を行い、その結果を下記のとおりまとめました。

### 記

#### 1 委員構成

小泉委員（分科会長）、海住委員（副分科会長）、石見委員、今井委員、大幡委員、川北委員、須山委員、田部委員、中川委員、長谷川委員、服部委員

#### 2 後期基本計画の策定に係る踏まえるべき主な視点

##### (1) 豊かな文化と心を育むまちづくり

施策名	計画策定に係り踏まえるべき主な視点
生きる力を育む教育の推進	<p><b>【まとめ】</b> 地域と学校の交流を促進し、相互の連携と協力により、強い絆を築き、家庭教育の強化と地域で子どもを育てる環境の整備が必要である。 また、子どもの学力向上については、子どもの学習意欲を高めつつ、状況に応じて特色ある取組を検討する必要がある。</p> <p><b>【委員からの意見】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の先生は管理職を中心に孤立しがちであるため、サポートする体制ができないか。</li> <li>・各地域で活動している先生の取り組みを連携させて広げていくことができないか。</li> <li>・子どもの健全育成には、家庭教育が重要な役割を果たすが、現状では家庭教育が崩壊している。この対策を充実することが必要である。</li> <li>・何よりもまず、家庭の教育ができていないことを問題とすべきである。</li> <li>・本来、親が教育すべきことを学校に押しつける親がいる。まず、親の教育をやるべきである。この役割を担うのが、社会教育主事である。</li> <li>・声かけ運動の成果ではないかと考えるが、犯罪が少なくなった。</li> <li>・中学生の学校クラブ活動やスポーツ少年団は休み</li> </ul>

	<p>無しの年中無休で行っている。週1日は休みとして、家庭人、地域人として還す必要がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・休日に地域で活動するための受け皿が必要である。</li> <li>・全国学力・学習状況調査では、三重県は全科目で平均より下であったことから、子ども達の学力向上を図る必要がある。</li> <li>・公立学校で土曜日の授業や平日の7時間授業を実施するなど、学力向上のための先駆的な取組も検討するべきである。</li> <li>・学力を高めるためには、自己肯定感と意欲を高める取組が必要である。</li> </ul>
<p>高等教育機関との連携・充実</p>	<p><b>【まとめ】</b>          大学や短期大学などの高等教育機関と、地域や小中学校などは、連携する意思が互いにあることから、それぞれのニーズが分かるように情報を共有することや、連携のサポートを強化する必要がある。</p> <p><b>【委員からの意見】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一身田中学と三重大が交流を行っている。食品関係は三重短大と交流している。各大学等が持つパートごとに積極的な動きをしていけば、連携はできる。市はそのサポートをするべき。</li> <li>・高等学校と中学校は、スポーツなどで連携が進んでいる。</li> <li>・産業界と大学とでいろいろな連携が進められている。そういった情報を市内で共有できないか。</li> <li>・公民館で半年、大学の先生が一般から受講生を募集して講座を開いていた。三重大学の学生は、音楽関係で小中学校にかなり入っている。</li> <li>・大学も、いろいろな場で発表できる機会や交流できる機会を求めている。</li> <li>・津市内の大学等と、中学校区の単位ぐらいで地域と交流できないか。</li> <li>・教員養成課程の学生が学校に入って活動することは良いことと思う。</li> <li>・協働事業は学生にとっても、事業主体にとっても良いことであるが、大学や教授に話をしているときはいいが、実際に学生を巻き込んで事業を行う場合には、まだ壁を感じることもある。</li> </ul>

生涯学習スポーツ  
社会の実現

### 【まとめ】

社会教育主事等の人材を生かすとともに、リーダーの育成にも資する質の高い講座を開催するなど公民館機能を強化する必要がある。

各地域が連携したイベントの開催などのほか、現在整備が進められている屋内総合スポーツ施設のみならず屋外総合スポーツ施設の建設も検討を行い、市のスポーツ力のボトムアップを図るべきである。

青少年の健全育成として、家庭・地域・学校それぞれが子どもの育ちに責任を持ち、かつ、小学生や中学生、高校生の地域活動への参加を促進する必要がある。

### 【委員からの意見】

(生涯学習)

- ・ 公民館活動も合併後、施設の利用料金をとられるようになったために特に高齢者は利用しなくなった。公民館の役割を考えてほしい。
- ・ 公民館が貸館業務中心となって、主催事業が少なくなっている。地域の課題・問題を考え、地域のリーダーを養成する本来の役割を果たしていない。
- ・ 公民館では、課題講座と教養講座を開催しているが、特に教養講座はマンネリ化している。
- ・ 津市にはこれまで社会教育主事の資格を持つ人がいなかった。学校教育と社会教育を結ぶ役割を担っているのは社会教育主事であり、学校の先生が地域に入るのは限界があるし、自治会長でもできない。資格取得を促す必要がある。
- ・ 公民館の利用が有料となったので、団体活動において負担となっている面があり、この面の配慮が必要である。

(スポーツ振興)

- ・ スポーツレクリエーションの事業は、旧町村単位で引き続き実施していたが、現在は経ヶ峰登山を安濃、芸濃、美里が連携して実施することになっており、まず北部エリアとして連携して活動し、さらに全市に活動の輪を広げていきたい。
- ・ 屋内総合スポーツ施設の整備が進められているが、屋内よりも屋外でスポーツ活動している人が多いことから、屋外型のスポーツ施設の整備が必要である。施設が少ないために、安濃中央総合公園に集中している。
- ・ スポーツ少年団の数は多いが、サッカーなどの特定のスポーツに偏っており、他と一緒にできないスポーツ少年団もみられる。

	<p>(青少年の健全育成)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の活動に高校生、中学生の参加が少ない。こうした空白となっている子どもの参加を促すために、この年代の子どもで実行委員会をつくって「こども祭り」を企画・開催することを提案したい。</li> <li>・健全育成という言葉は、子どもを主体的に捉えていないようで気になる。子どもの子育ちを、どこまで市民のものとしていけるかを考えるべき。</li> <li>・子育ちのためには、地域の中で子どもを育てていく責任がある。</li> <li>・子どもが育つ力をどうサポートするのかを考える必要がある。</li> <li>・健全育成への責任は学校の先生へ押し付けられている部分が多くなっており、家庭の崩壊は私達の世代の責任であり、核家族化は、子育て文化が継承されないという課題がある。</li> </ul>
<p>文化の振興</p>	<p><b>【まとめ】</b></p> <p>市民が活動しやすい施設の在り方を検討するほか、地域の歴史的資源については、その保存・活用方法のほか、もっと市民と市外に広く知ってもらおう仕掛けづくりも必要である。</p> <p><b>【委員からの意見】</b></p> <p>(文化、芸術活動の充実)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・久居駅東口の旧市民会館は耐震性の問題もあり、合併の約束で建て替えられることになっているが現在は白紙の状態である。</li> <li>・市内には、小さいホールは多数あるが1,000人規模のホールが無いことから、是非1,000人規模でしかも優れた音響設備を備えたホールを整備してほしい。</li> <li>・多目的ホールは演劇がやりにくいので、目的別ホールを考えてもらいたい。</li> </ul> <p>(歴史的資源の保存と活用)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・白山地区では「かんこ踊り」を3地区で続けてきたが次第に廃れてきた。その原因は、合併後助成金が無くなったため、人はいても資金面で続けていくことが難しくなっている。地域の伝統文化を復活させる方策を考えていく必要がある。</li> <li>・それぞれの地域に眠っている文化的遺産を何らかの形で残す必要がある。例えば、白山町の家城ラインには疎水が残っており、住民は修復を望んでいる。</li> <li>・北畠館史跡を津市民がどれだけ知っているか疑問である。同じ年代に廃れた福井県の朝倉家遺跡は保存のための整備が進んでいるが、北畠館史跡の</li> </ul>

	<p>保全・整備は遅れている。この史跡の価値をまず津市民に理解してもらうことが重要である。そのためにも市民が触れることができる施策が必要である。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・合併して津市は市域が広がったため、知らない地域の資源が多く、それを市民に知ってもらいたい。</li> <li>・観光ボランティア団体が13団体あり、これらの団体がネットワークをつくり、ふるさと学の検定試験を実施する。検定のためのテキストを作成しており、各地域の歴史を学ぶ良い機会となる。</li> <li>・「藤原千方と四鬼」については、市の観光ガイドに掲載されていない。埋もれた文化的遺産（の活用）について市が取り組んでももらいたい。</li> <li>・東京にいと三重県も津も分からない。どのように市民と力を合わせて、県庁所在地で津はおもしろいと情報発信するかを考える必要がある。</li> </ul>
<p>人権尊重社会の形成</p>	<p><b>【まとめ】</b>  人権は全ての施策に関わる問題であることを認識し、相手の立場を理解し、相互尊重の精神が育まれるよう、家庭・学校・地域で活動を進める必要がある。</p> <p><b>【委員からの意見】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人権は全ての施策に関わっていく問題である。</li> <li>・人権に係るいろいろな年間行事が行われており、出席するメンバーは決まっているものの、活発な活動が行われている。旧市町村単位でも、会館でいろいろな講演会を行っている。</li> <li>・いじめの問題は、相手の立場を理解していないと同時に、自分も大切にしていない。自分を大切に、他の人も大切にするように、家庭・学校・地域で進めていくべきである。</li> <li>・虐待している親は、昔虐待されていた場合が多く、親とともに取り組む必要がある。</li> </ul>

(2) 参加と協働のまちづくり

施策名	主な意見
市民活動の促進	<p><b>【まとめ】</b> 自治会等における地域リーダー等の人材が育成されやすい環境の整備や地域住民が交流する機会の創出等による地域連帯の強化を図る必要がある。 市民活動団体等の交流や活動の場、また、中間支援組織の支援や団体間の情報交換の充実を図り、団体間の連携等による課題解決ができる仕組みが必要である。</p> <p><b>【委員からの意見】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・世代間交流、地域間交流が難しくなっている。働き盛りの年代に加えて、80歳代以上の高齢の人の参加ができなくなっている。</li> <li>・自治会長が毎年交代している自治会が多く、地域の人材育成ができない。そのため、地域力が弱っている。</li> <li>・指定管理者の対象施設を拡大し、競争させることにより市民活動組織の底上げを図るべきである。</li> <li>・ボランティア連絡協議会が組織化されているが参加者の高齢化が進んでいる。津全体でボランティア祭りなどを開催し、団体間の交流促進や若い人の参加を図り、組織づくりにつなげていくことが必要ではないか。</li> <li>・NPO等が育つには中間支援組織の力が必要であるが、中間支援組織が弱いこともあって、行政と対等に協働するNPO等が少ない。</li> <li>・中間支援組織の機能強化等により、支援のあり方や行政との連携の強化を図る必要がある。</li> <li>・自治会の行事等に参加しない人が多く、そのほとんどが参加しなくてもよいと考えている。</li> </ul>
市民との協働の推進	<p><b>【まとめ】</b> 地域の活動を行政がどのように支援するのか、また、地域とどのように連携していくのかを検討する必要がある。</p> <p><b>【委員からの意見】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・津まつりやシティマラソンなど津市全域のイベントとしているものは、市を挙げて市職員による支援が行われているが、地域の祭りやイベント等については、職員の支援に偏りがある。</li> <li>・市民活動団体は、自分達を中心となって事業に取り組んでいる。地域のイベント等でも住民が中心となって取り組み、そこに協働というものが生まれるような形で進めるのが、本当の意味で地域の力になっていくのではないか。</li> </ul>